



NATIONAL CENTER FOR RESPONSIBLE GAMING

Advancing Research, Education and Awareness

責任あるゲーミングと日本の将来像

Alan Feldman, Chairman
National Center for Responsible Gaming



NATIONAL CENTER FOR RESPONSIBLE GAMING

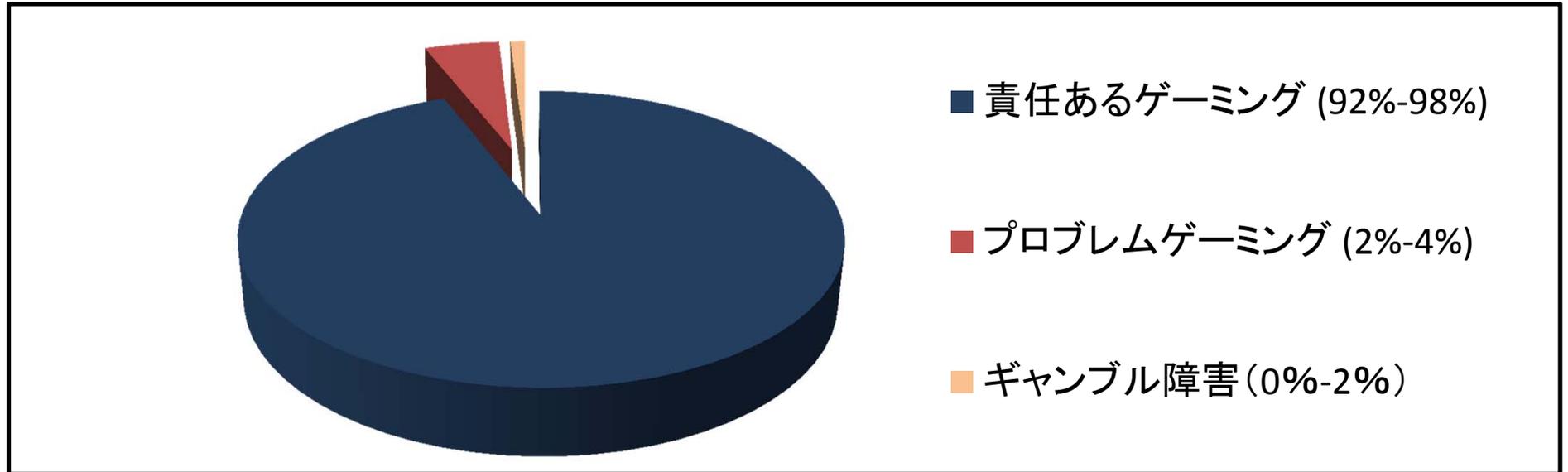
Advancing Research, Education and Awareness

NCRGは、ギャンブル依存症に対する実証研究とそれに
従った啓蒙活動を行う、米国における唯一の民間機関であ
る

プロブレムゲーミングの実態

ギャンブルは世界のどこにも存在する、しかし、病的ギャンブル障害はそれほど大きな問題となっていない

- プロブレムゲーミングとギャンブル障害(病的ギャンブル依存症)は、その地域に合法的なゲーミングが有るか否かにかかわらず、存在します。プロブレムゲーミングと依存症の存在は、文化や地域性に関係なく、一般的に存在するものなのです。
- 過去20年間に渡り様々な研究がこの分野で行われました。その結果、提供されるゲーミングの国、地域にかかわらず、人口の1~2%の比率で、ギャンブル障害が存在する事が確認されています。



米国精神協会は、ギャンブル障害(病的ギャンブル依存症)を以下のように定義しています。「ギャンブル行為が永続的であり、且つ、やめることが出来ず、個人ならびに近親者へ悪影響を及ぼす行為」。プロブレムゲーミングは、協会の定める定義には該当しないながら、ギャンブルに対し問題を抱える方々を指します。

ギャンブル依存症：IR事業者の取組み

従業員教育

- すべての従業員は、責任あるゲーミングのトレーニングを受講
- 一年に一度、再講習あり
- 主旨ならびに手順に関して、常に思い出せるよう、コミュニケーション・プログラムを年中通して慣行
- プロBLEMゲーミングの傾向がある顧客を識別できるよう、訓練を実施
- 責任ある飲食サービス方針に基づき、酩酊状態の顧客に対するアルコールの提供を禁止

公衆に対する教育

- 一般社会に対する責任あるゲーミングの教育を積極的に行う
- 教育は、節度あるゲーミングとその害について理解を深めるうえで、重要です。

依存症の研究、治療機関に対する働きかけ、補助金ギャンブル研究及び対策

- 世界的なIRオペレーターは、公共の保健機構と協業し、ゲーミングによってもたらされる税収からプロBLEMゲーミングの処方費用について補助する事を奨励します。
- 世界的なIRオペレーターは、依存症の研究及びその処置の第一人者を金銭面を含めて支援します。(例：NCRG)

強力／適正な規制

- 顧客排除プログラム
- 全従業員の教育



プロブレム・ゲーミングケーススタディ

シンガポールにおけるカジノ開場後の依存症の推移から類推できることは、包括的な教育、公衆への周知、責任あるゲーミング制度の導入により、依存症を顕著に軽減する事が可能であるということです。

- 2010年、シンガポール政府は2か所の統合型リゾート開発及び運営の独占ライセンスを与えました。
- 合法化から1年経過した2011年、政府は以前と比較してギャンブル障害及び問題のあるギャンブルの有病率が低下したことを報告しました。
- 2014年に至り、政府とオペレーターの共同作業により、問題あるギャンブルとギャンブル障害のレベルはさらに低下し、カジノ導入以前の率を遥かに下回る数値まで低減しました。

シンガポール	2008年	2011年	2014年
ギャンブル障害（病的）	1.2% (0.7% - 1.6%)	1.4% (1.0% - 1.7%)	0.2% (0.03% - 0.4)
プロブレムゲーミング	1.7% (1.1% - 2.2%)	1.2% (0.9% - 1.6%)	0.5% (0.3% - 0.8%)
計	2.9% (2.1% - 3.5%)	2.6% (2.0% - 3.1%)	0.7% (0.4% - 1.0%)

注記：カッコ内の数値は、95%レベルの信頼区間を示す。



NATIONAL CENTER FOR RESPONSIBLE GAMING

Advancing Research, Education and Awareness



www.ncrg.org
blog.ncrg.org



@theNCRG



YouTube.com/
NCRGBlogTeam



theNCRG